

子どもの実態

優しい 仲が良い 明るい 素直 活発 人懐こい
多様性を認めている
支援を必要とする仲間へのあたたかさがある

学力差を解消し、学習の積み重ねを大切にしたい
自信がない児童に自信を持たせ、主体性をもっと育てたい
家庭学習を充実させたい

研究推進委員会より

育てたい子ども像

自分が好きな子 自信がある子 自己肯定・自主性
意欲・向上心がある子
基本的な生活習慣（挨拶、忘れ物、時間の使い方）
考えられる子 努力（粘り強くがんばる）できる子

→研究テーマ「がんばる子の育成」

今年で2年目の研究となる。「算数」を中心に研究し最後まで「あきらめないで頑張る子」を育てたい。そのためには頑張りたくなる授業を作ることが何よりも大切

子どもの「生きる力」の育成

確かな学力を育成します 多様な人々と協働する力を育てます 健康の保持増進と体力の向上を図ります

横須賀市立久里浜小学校 学校教育目標

やさしい子 考える子 がんばる子

○「道徳教育の充実」（前回までの研究を維持継続する）（各教科行事活動を含む）
○「人間性豊かな児童を育てる」
関わり合い・よさを認める活動、いじめや差別、暴力のない安心して笑顔あふれる学校を継続する。
○「コロナ禍での授業の工夫」
関りを通して育てる面の工夫、異学年交流活動、クラブ、委員会、学び合いなど工夫が必要。
○インクルーシブ教育の推進 相互に協力、補完し合い児童を育てる。

○「個別最適な学びと協働的な学び」
・児童一人一人の良さを引き出す指導の充実 主体的な学習 クロームブックの活用
・学び合いの充実（指導方法の研究）
教師一人が教えるのではなく、児童同士の学び合いを通して学習を深める授業。（算数を通して指導法の工夫改善）協働的な学び、深い学びにつなげる。
○考えることの楽しさの実感
友達に自分の考えが伝えられた。友達のことを聞いて新たな考えが持てたなどみんなで考えるのことが大切さを実感させたい。
○情報教育の推進、学習を深める研究

○「最後まであきらめない心を育てる」
成功体験の積み重ねにより自信をつけさせたい。様々な場面で支援をして頑張らせる取り組みを。
○「頑張ることの大切さを実感させる」
頑張ればできる、算数を通して「わかった・できた」など自信を持たせて自己肯定感を育てたい。（学校全体の研究）
○「健やかな体の育成」頑張れる体力をつけさせたい。

○児童との信頼関係の構築

人権意識、不公平を感じさせない指導、ダメなものはダメと毅然とした態度、そのあとのフォロー、
教師が子どものやさしい行動、言動を価値づけ広める。
人にやさしくすることの良さを日々の生活の中で示す。
学級会で児童に、通信や連絡帳で保護者にも伝える。
児童の疑問を面白がって一緒に考える。
子どもたちで対話しながら進める。時間のゆとりをもつ。つくる。
保護者との信頼関係を深める。

○自己研鑽

自分の取組みを振り返る時間をつくる。先に児童、保護者のせいではなく、自分の指導に課題はないか常に考える。
教職員自身がセンスを磨く 教師の時間厳守！
教師との関係でやさしい言葉、声掛け、配慮を示し、子どもにその姿を見せる 教師が率先して一つ先の行動をする。
教師からの発信を少なく、子どもの発言を待つ。
「どうしたら良いですか」という質問に対し、すぐに指示するのではなく、常に考えさせることにより児童は育つ。
教師同士の信頼関係を深める。

“One Team” 連携とマネジメント、そして変革

マネジメント

○教育の質を高めるためタイムマネジメントを行います。（指導の質と自己の生活健康）
環境整備、机上整備に努めます。優先順を考えて業務を遂行します。
時間、気持ちのゆとりをもちます。
○カリキュラムマネジメント
指導内容、必然性のあるカリキュラム編成を意識します。（これが質の向上や時間を生み出すことになる。）
○PDCAを意識して行動します。
計画→実行→評価→改善
○向上心をもって自己研鑽に励みます。
自分の役割を理解します。

変革

○変化を恐れませんが、新しいことにチャレンジします。
○次年度を考えて行動します。（後継者も意識して）
○子どもと向き合う時間の確保のため常に工夫や改善を図ります。仕事の無駄をなくします。

連携

○学年・グループは一つのチーム なんでも相談し、チームで解決します。（仲が良いことは子どもにも影響します。）
○学校全体としては 日常的に豊富なコミュニケーションを取ります。報連相を徹底します。前向きな言葉をつかいます。情報を共有します。明るく働きやすい職場を目指します。
○様々な仕事に目を向けます。誰かが困っていたらすぐ声を掛け手伝います。
○久里浜小職員として一つのチームとして協力します。